

実践報告 梶山女学園大学教育学部 公開セミナー

## 保育実践ワークショップ 2007

中田 直宏

Naohiro Nakada

大森 隆子

Takako Ōmori

### メロディ創作・アレンジのこつ

——さらなるスキル・アップを——

中田 直宏

この報告は、平成 19 年 7 月 28 日 (土) 午後 1 時 30 分より 2 時 20 分までの 50 分間、約 80 人の受講生に実施したワークショップの実施要項及びその概要をまとめたものである。

#### 実施要項

- |                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| 1 メロディとは          | 3 簡単なアレンジ                |
| 2 メロディ創り          | ①メロディのパートに下声部をつけ、二部合唱にする |
| ①リズム設定による拍子の決定    | ②合唱曲へのアレンジ               |
| ②イントネーションによる音型づくり | ③伴奏付け                    |
| ③開始音              | 配布資料 普例 1～10             |
| ④クライマックスの設定       | (普例 6、7、9、10 を添付)        |
| ⑤モチーフの活用          |                          |

#### 1 メロディとは

- ・メロディの概念
- ・メロディの特質及び性格と対象年齢との相関関係

#### 2 メロディ創り

##### ①リズム設定による拍子の決定

メロディー創りにおける根幹となる「動きの流れ」にポイントをおき、的確なそして魅力あるリズム設定と拍子の決定が求められる。ここでは梶山女学園附属幼稚園園児の作による詩(下記)を用いた実作例を示し説明した。

「春になったら」

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. 春になったらどうなるの | 3. 秋になったらどうなるの |
| ハチがくるよ         | さみしくなるよ        |
| どうして           | どうして           |
| お花がさくから        | 葉っぱがおちるから      |

(譜例5)

まず歌う気持ちで抑揚をつけて朗読する。そこから導かれる言葉—(単語)—の区切り(小区切り)、ブレスの区切り(大区切り)やアクセントによって同じ言葉でも複数またはかなりの数のリズム音型が考えられることと、休止符とシンコーションの扱いが重視されるべきことを作例をもって例示し考察した。(譜例2)

②イントネーションによる音型づくり

言葉(単語)のアクセント及びイントネーションに合致する音高は最重要要件である。しかしフレーズのバランス感覚やクライマックス設定の必然的要求による音高との不一致もしばしば起こりえる。実作ではこれらを考慮し最善策を見いだすべきであり、実例を示し考察した。

③開始音

和声進行に合わせて、出だしのメロディを作る。

和声進行については、和声学に於ける基礎的でかつ最重要の理論を必要最低限の範囲で例示し説明をした。(譜例1)(譜例3)

④クライマックスの設定

8小節のメロディ(テーマとして最短のもの)を作例する。③で学んだ理論をふまえ、まず前段(始めの4小節)では考えられるほぼ全ての和声進行を示し、それらに基づくメロディを作る。(譜例4) 後段は定型でありカデンツ(終止形)を形成しなければならない。クライマックスとは最小単位8小節のメロディから大がかりな楽曲まで全てに設定されるべき力点(頂点)である。それはほぼ後半4分の1以降におかれ(従って8小節の曲では6小節あたり、10分の曲では8分半のあたり)、劇的進行と充実した構成観のためにその的確な設定が欠かせない。その作法を例示。

⑤モチーフの活用

モチーフ(音型)操作は有効であり、これを多く活用すべきである。

これは後出の譜例で数多くみられる。

譜例1 和声進行、主要三和音、カデンツ

譜例 2 「春になったらどうなるの」のリズム設定一拍子決定作例集

譜例 3 開始音及び出だしの旋律例

譜例 4 テーマ前段（4 小節）の旋律例

譜例 5 楽譜「春になったら」（作詞 梶山女学園附属幼稚園園児 作曲 中田直宏）

### 3 簡単なアレンジ

#### ①メロディのパートに下声部をつけ、二部合唱にする

メロディ（上声）に対して 3 度（6 度）が主になるが、和声音に基づくのが原則のため 4 度、5 度も使用される。必ずしも全曲につけなくてもよい。これらの作例として楽譜「春になったら」（譜例 5）を提示。

#### ②合奏曲へのアレンジ

- ・最低音（Bass）が的確であること
- ・和音の転回形の有効な使用
- ・Bass の進行が和声効果に大きな影響を与えること
- ・内声は主に和声音を使い、メロディらしくするのが望ましい

これらを「算数のうた」（譜例 6）をもちいて解説した。

#### ③伴奏付け

伴奏の中に曲の最低音があるので、この運用は甚だ重要であり和声知識と技術は欠かせない。従ってここではまず和声理論の基礎として和音の基本形と転回形について述べ、その有効な選択を解説した。

つぎにより高度な和声変化にふれ、同じ旋律に異なった和声付け等の作例を示した。（譜例 7）

さらに伴奏部における主として左手の伴奏形が、曲想に大きくかわり、また“適切な音域、響き”への関心は欠かせないことを述べ、実演をまじえてこれらの事例を示した。（譜例 8）

### 資 料

譜例 6 算数のうた（サトウ ハチロウ作詞 中田直宏作曲）

譜例 7 「春になったら」（譜例 5）で同じ旋律に異なった和声付けをした作例

譜例 9 伴奏形について

譜例 10 ピアノ曲「For7.28」（中田直宏作曲）——本日の記念にみなさまへ——  
（モチーフ活用の楽曲例として）

本概要では譜例のうち、譜例 6、7、10 を下記に添付し、他を省略した。

算数のうた

サトウ ハチロー 詩  
中田 直宏 曲

Moderato

あ か い ぬ む く い ぬ かん かん

Piano

Perc. 1

Perc. 2

譜例 6

ち べ い ぬ かん かん で 三 ひ き

Piano

Perc. 1

Perc. 2

譜例 7

春になったら

*N. Nakata*

はる にな ったら どうなるの はち がとぶよ

ど う し て お は な が さ く か ら

譜例 10

for 7.28

*N. Nakata*

Andante  
Piano

rit.

## わらべうた遊びや律動遊戯を楽しもう

——わらべうたとそのルーツ——

大森 隆子

この報告は、平成 19 年 7 月 28 日（土）午後 2 時 50 分から 3 時 40 分までの 50 分間、約 70 人の受講生に実施したワークショップの実施要項及びその概要をまとめたものである。

### 実施要項

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 わらべうたとは      | 3 律動遊戯とは      |
| 2 わらべうたで遊ぼう    | 4 律動遊戯を楽しもう   |
| ——遊び方とそのルーツ——  |               |
| ① パンを焼いて       | ① 糸巻き         |
| ② ずいずいずっころばし   | ② 出して引っ込めて    |
| ③ カラスかずのこにしんの子 | ③ ブランコをこぎましよう |
| ④ 子とろ子とろ       |               |
| ⑤ かごめかごめ       |               |

### 1 わらべうたとは

わらべうたとは、一般に作者不詳で口承により伝えられてきたうたをいう。「遊びうた」、「唱えうた」、「戯言・悪口うた」など子どもによって歌い継がれてきたものと、「子守うた」、「あやしうた」、「呪いうた」など親を中心とする大人が子どもに歌って聞かせたものがある。この二つのうちどちらが先かといえば親が子に歌って聞かせた方で、子どもは歌ってもらった原体験を土台に、自分たちのうたを生み出していったものと考えられる。その土地その土地で、子育ての日々の暮らしや子らの遊びの中で、また、家や地域の行事や祭りの中で、「子を思う親心や生きる知恵・教え・あるいは遊び心など」を織り込んで、長い年月（短いもので 100 年、長いものは 1000 年余、多くは 200～300 年）生命を保ってきた歌といえる。わらべうたを分解すると言葉・メロディー・動作・ルールとなる。したがって、それらから構成されたものの一つをわらべうたということもできる。

類似したものとしてよく質問されるわらべうたと童謡の違いはどこにあるのかについて、実際に聞いて感じて、分析してみる。本学の学生による独唱、「ずいずいずっころばし」（わらべうた）と「赤とんぼ」（童謡）を聞く。その結果分かったことを受講生に問うと、「リズム、音域などが違う」との返答がある。独唱者に聞くと、「暗いイメージ（わらべうた）と明るいイメージ（童謡）の違い、また楽譜を探したところ、童謡は伴奏が付いているがわらべうたはなかった」との答え。童謡は作詞者・作曲者

の名が明確で、子ども向けの作品である。歌詞は理解しやすく、音域は比較的広く、音楽性に富む。それに対してわらべうたは作者が不明で、歌詞は判読し難く、音域は狭く、語りに近い節が多い。

## 2 わらべうたで遊ぼう——遊び方とそのルーツ——

### ①「パンを焼いて」

パンを焼いて ひっくり返して焼いて (バター) を付けて パクパクパク (括弧内が変わる)

江戸時代の資料によると、新潟地方で「にしんこ焼いて」と歌われている。その後関東地方で「おせんべ焼いて」と歌われ、現在は様々な地方で「パンを焼いて」と歌われている。

手の甲と平を交互に返したり擦ったりする。

### ②「ずいずいずっころばし」

ずいずいずっころばし ごまみそずい 茶壺に追われて トッピンシャン 抜けたらドンドコショ 俵のねずみが米食ってちゅ (以下略)

江戸時代、京都の宇治の茶を江戸城まで茶壺道中として届ける慣習を基にできたという説がある。

輪になって各自手を丸める。出来た手の筒の中に、鬼役の子が人差し指を順に入れていく。

### ③「カラスかずのこにしんの子」

カラスかずのこにしんの子 おしりをねらって かっぱの子

円形に手をつないで立つ。円の外を歩く子が「かっぱの子」のところで、一人の子のおしりをたたく。たたかれた子が先頭になって同じ動作をし、次第に外の子が増えていく。

### ④「子とり 子とり」

子取り子取り どの子を取り どの子を取り 取るなら取ってみろ

最も古いわらべうたと言われているもので、平安時代に恵心僧都が鬼から子を守る仏舞として考案したものとも伝えられている。

鬼役の子が、親を先頭に繋がる子たちの最後尾を、左右へ旋回しつつ捕らえるという鬼遊びである。非常に激しい動きを要するもので、実際に試したところフーフー言い息切れしていた。江戸時代には「こまどり」という遊び名で遊ばれ、狂歌にも歌われている。

この遊びはヨーロッパでも似た形が複数記録されており、その中から「ねずみのしっぽ」、「悪魔の頭としっぽ」、「鶯鳥の行進」(ブリュッセル『子どもの遊戯』より)の3種を取り上げた。

⑤「かごめかごめ」

かごめかごめ かごの中の鳥は いついつでやる 夜明けの晩に 鶴と亀がすべった 後ろの正面 誰

これは、資料の上でもそのルーツと変化の過程が明らかになっている好例である。文献によれば、江戸時代後期に「籠の鳥型かごめ」から「くぐり型かごめ」へ、さらに明治時代に入り、現在の「かごめかごめ」になったことが確かめられる。この変化は、わらべうた遊びが時代や環境、子どもの変化により形を変えて継承されていくという証左になる。実際にそれぞれ違った「かごめかごめ」を試みる。

### 3 律動遊戯とは

大正時代の中期に土川五郎が考案した遊戯をいう。『律動遊戯集』（律動遊戯研究所）において発表した作品を講習会を通して普及に努めた。それまでの見せる遊戯から、子ども自身が楽しむ遊戯へと心を砕いている。メロディーはヨーロッパ・アメリカ等のフォークダンス・ミュージックを主に用い、単純で歯切れよい、繰り返しの動作を振り付けている点が特徴である。

### 4 律動遊戯を楽しもう

自身が着任した鹿児島市内の敬愛幼稚園で、継承した律動遊戯の遊び方を紹介する。なぜか子どもたちはこれらの遊戯を大変好み、毎日のようにせがまれた記憶がある。しかし現在、一部を除いて他の幼稚園ではほとんどみられないものである。

①「糸巻き」

糸巻き巻き 糸巻き巻き 引いて引いて トントントン できたよできた おくつができた

両手を用いて遊ぶ手遊びの代表的なものである。もともとは曲と動作が示されているだけで、この歌詞はない。

②「出して引っ込めて」

出して 引っこめて 1・2・3（反復） それ 出して 引っこめて 1・2・3

両手・両足を使い、全身で動作して円状に前進し、巡るものである。歌詞の通り、手と足を出し、引っ込め、3歩前に進むという単純な反復動作である。なぜか子どもたちはこれを好んだ。これももとは曲と動作が示されているだけであるから、誰かの手で歌詞が付けられ伝わったものと考えられる。

③「ブランコをこぎましょう」

ブランコをこぎましょう ブランコをこぎましょう 大きなりんごの木の下で

3人組を作り、円周上に適当な間隔をあけて位置する。2人が両手を取りブランコを作る。残りの1人は乗り手で、ブランコに両手を渡す。ゆらゆら揺れるブランコの



振動に身を任せ、「木の下で」のところで、ブランコをくぐり抜け次のブランコへと進む。一周してもとにもどると、役を交代する。揺らすところ、交代するところ、全部を楽しんで大騒ぎとなる。ワークショップでも皆楽しんでいた。もともとは「波」や「海」であり、これも保育実践の中でいつしか「ブランコ」となったようである。

## まとめに代えて

本日紹介したわらべうた遊び・律動遊戯はいずれも派手さはないが、長く伝えられたものの特有の子どもたちの心身に響く魅力が内在していると思われる。日々の保育に少しでも参考になればと願う。

### ■参考文献

- 1 尾原昭夫編著『日本のわらべうた 戸外遊戯歌編』社会思想社、1975 年。
- 2 尾原昭夫編著『近世童謡童遊集』柳原書店、1991 年。
- 3 森洋子著『ブリュッゲルの子供の遊戯』未来社、1989 年。
- 4 岡田正章監修『大正・昭和保育文献集』第 4 巻、株式会社日本らいぶらり、1980 年。